

中国人日本語学習者の副詞の語順

Word Order of Adverbs by Chinese Learners of Japanese

浅田和泉

Asada Izumi

1 はじめに

野田(1984)、小矢野(1984)は、外国人日本語学習者が副詞を使用する際、語の選択や呼応の問題、さらに語順による問題が生じやすいとしている。(1)(2)は、外国人日本語学習者の作文コーパス(国立国語研究所 2001)にみられた副詞の誤用文であるが、どちらも語の選択・語順(統語上の位置)の問題が考えられる。副詞「よく」は、<程度>と<頻度>の意味で用いられることが多い。(1)(2)の「よく」を<程度>と考えた場合、語の選択の誤りが考えられ、<頻度>であれば、語順が問題となる。

(1) *昔、赤ちゃんがよく病気になったら親さんが子どもにジユクのようにかみのけを切らせませます。 (th118)¹⁾

(2) *でもわたしのいけんは、じぶんのちからで、よくどりよくをもつとすべきです。 (kh005)

また、誤用の多くには、音韻的な問題も影響する。(3)aが完了の「もう」とするならば、(3)bのように数量詞「2年間」の直前、あるいは文頭に置かれるべきであろう。しかし、(3)bは(3)c,dのように音韻構造のあらわれ方により、「もう」の意味が異なる。(3)dの意味のもう2年間では、この音韻構造をとるために「もう」と「2年間」が隣接していなければならない。語順の制約には、このような意味が音韻構造によって表示されることが関与する場合がある。

(3) a. *大学に入って2年間もう勉強した。 (自作例文)

b. 大学に入ってもう2年間勉強した。

c. 大学に入ってもう2年間勉強した 《完了》

d. 大学に入ってもう2年間勉強した 《付加》

このように、副詞の語彙的意味には、音韻構造による制約がある場合を含め副詞の語順

が関係していることがわかる。本稿では、統語論上の性質としての副詞の語順について考察し、音韻については直接には扱わないこととする。副詞の語順に関しては、野田(1984)が、副詞の語順つまり統語上の位置に関する問題は目立ちにくく、それ故、外国人学習者に対する積極的な指導はあまりおこなわれていないようだと言っている。その理由を「語順の問題が目立ちにくいのは、副詞の語順が比較的自由なため、多少語順が乱れても完全にまちがった文にはなりにくいからであろう」(同上:79)としている。

そこで、本稿では、外国人日本語学習者が副詞の語順をどの程度理解しているかを調査分析する。

2 意味と統語構造

柴谷・景山・田守(1982)は、文の意味と文の構造とは関係があるとしており、その関係をこのように説明している(図1)。

文法機構は互いに関連するいくつかの部門から成り立っていると考えられている。
 (中略)文法機能の片方には意味部門があって、これは意味と直結している。もう1つの端には音声と直接に関係する音韻部門がある。これら2つの部門は統語部門の媒介によって関係づけられている。統語部門はまた語彙部門とも直接関係を持っている。1つの言語に使われる個々の語はそれぞれの特質を明示した形で語彙部門に納められている。つまり語彙部門は言語の辞書のようなものである。ここに納められている語には3種類の情報が明示されている。それらは、意味に関する情報、統語特徴に関する情報、および発音(つまり音韻的特徴)である。(p.15-16)

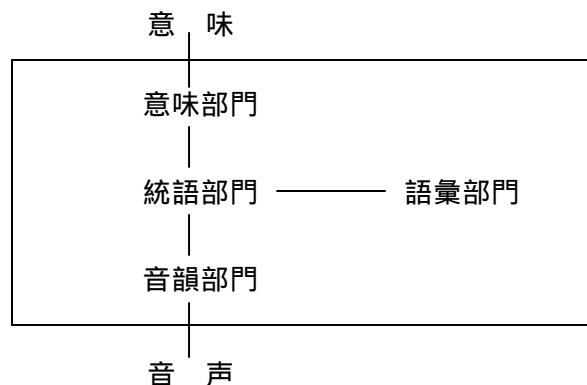


図1 (柴谷・景山・田守 1982:15)

このように、意味と統語構造は密接に関係していると思われるが、日本語副詞に関して

は、これまで語彙的意味・用法に関する研究が主流であり、意味による分類がされてきた。しかし、近年になり統語的な観点からの副詞の分類も研究が進められており、副詞の多義性を考えると統語的研究は必要不可欠であると思われる。統語的研究の必要性に関しては、仁田（2002：2）も「副詞的修飾成分への十全な分析・記述は、文全体の意味-統語構造についての見直しをしなければ不可能であろう（後略）」と述べている。

3 文の構成

柴谷・景山・田守（1982）は、S（主語）O（目的語）V（述語）からなる日本語の基本語順を統語的な機能によって区別すると、「補足部」（先行する要素）と「主要部」（後続する要素）になるとしている。そして、「主要部」は固定されているが、「補足部」内は語順の自由度があり、(4)のように「主要部」（述語）に対し、「補足部」（名詞節）内は語順を自由に入れ替えることができると述べている。(5)も名詞句内においては、名詞が「主要部」となるので、「補足部」の語順は自由となる。

(4) 昨日 太郎は デパートで セーターを 買った。 （同上：223）

（補足部） （主要部）

(5) これらの 3匹の 白い 太った ブタ （同上：223）

（補足部） （主要部）

野田（2006）は、文の構成は大きく「格成分」、「副詞的成分」、「述語成分」の3つの成分からなるとしている。柴谷・景山・田守（1982）の区別に当てはめると、「述語成分」が「主要部」に、そして「補足部」が「格成分」と「副詞的成分」に相当し、「述語成分」が基本的に文の最後に置かれるとしていることから考えると構成の順序としては同様であると言えよう。野田（2006）は、成分の順序には自由度があると述べており、それぞれの成分内の順序を傾向として以下のようにまとめている。

- a. 述語成分は、基本的に、文の最後におかれる。
- b. 格成分は、基本的に、「～が～に～を」の順序になる。
- c. 主題を表す成分は、基本的に、他の格成分より前におかれる。
- d. 副詞的成分は、基本的に、「モダリティの副詞的成分 - テンスの副詞的成分 - アスペクトの副詞的成分 - 動作者の副詞的成分 - 対象物の副詞的成分」の順序になる。

e. 従属節は、基本的に、主文の前におかれる。

(同上：183)

仁田(2002)は、文の成分(構成要素)を事柄的意味を形成するものとその外側で働くものとの分類している(図2)。そして、「命題内修飾成分」に該当する副詞的修飾成分を取り上げて、層的な構造を示している。次章では、仁田(2002)の副詞的修飾成分をも含め、副詞の語順について示す。

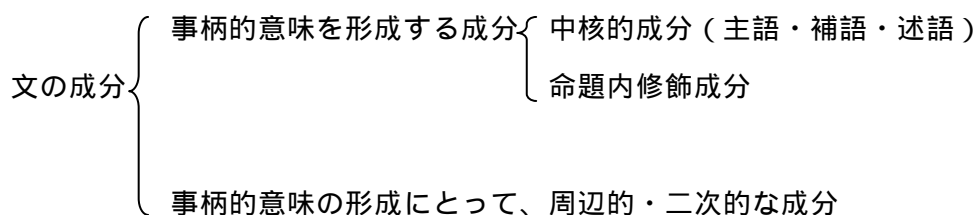


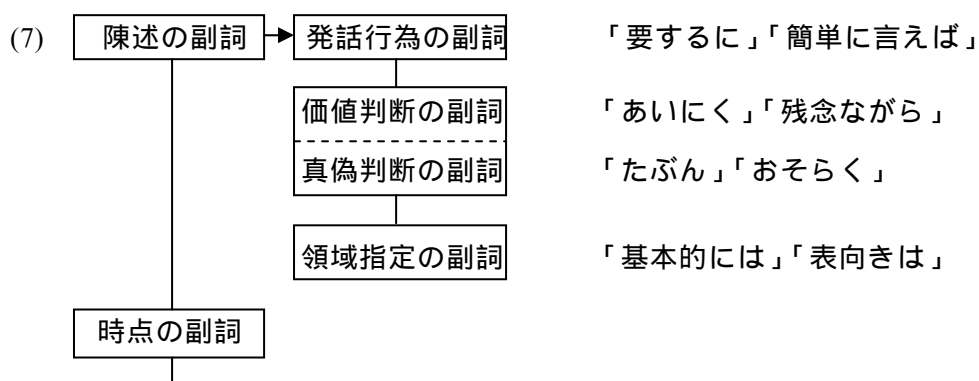
図2

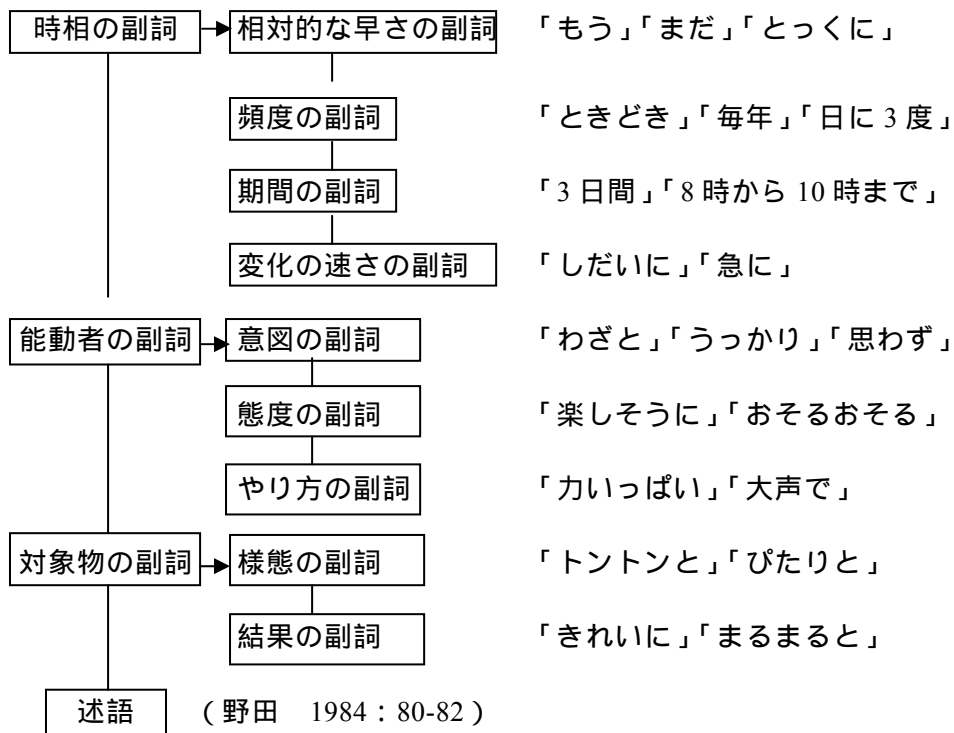
4 副詞の語順

仁田(2002)は、前章で示した副詞的修飾成分は(6)のような層状構造を取っているとされている。時の状況成分が最も外にあり、次の頻度の副詞がその他の副詞(時間関係の副詞、様態の副詞等)を包み込む形で働いているとしている。

(6) [時の状況成分 [頻度の副詞 [時間関係の副詞 [様態の副詞]]]]

野田(2006)が示した副詞的成分の順序は前章で紹介したように、「モダリティの副詞的成分 - テンスの副詞的成分 - アスペクトの副詞的成分 - 動作者の副詞的成分 - 対象物の副詞的成分」の順序になる。野田(1984)においては、(7)のような副詞の用語を用いて、各副詞内の順序をも示している。





仁田(2002)の順序には、モダリティ修飾成分である「陳述の副詞」が含まれていないが野田(1984、2006)の示した順序と比較してみると副詞の類別に多少の違いはあるものの、構造は非常に類似している。

以上、副詞成分どうしの順序について述べたが、それでは、文における副詞の位置はどのようなになっているのであろうか。これについては、野田(1984)が副詞と主題(「～は」)、能動者の格(他動詞主語)、対象物の格(他動詞目的語、自動詞主語)、結果の格(「～に」)との統語関係を副詞別に考察している。野田(1984)は、副詞にはある程度語順の自由があると述べたうえで、(8)のような表示方法を用いて副詞の語順を示している。副詞別の語順の概要を(9)～(14)に示した(同上: 83-85)。

- (8) 副詞の位置 ___主題___能動者の格___対象者の格 × 結果の格 × 述語
- : もっともおかれやすい
- __ : 比較的よくおかれる
- : あまりおかれぬ
- × : おかれぬ

(9) 陳述副詞の位置

- a. ___主題___能動者の格 × (: 後述) 対象者の格 × () 結果の格 × () 述語

(10) 時点の副詞の位置

- a. ___主題___能動者の格___対象者の格 ×() 結果の格 ×() 述語

(11) 時相の副詞の位置

- a. ___主題___能動者の格___対象者の格 ___結果の格 ×() 述語

(12) 能動者の副詞の位置

- a. ___主題___ ...能動者の格が主題のとき

___能動者の格___対象者の格___結果の格 ×() 述語

(13) 対象物の副詞の位置

- a. × 主題 × 能動者の格 ___対象者の格___結果の格 ×() 述語

(14) 程度の副詞の位置

- ・ 修飾先である述語のすぐ前におかれる。

野田(1984)は、副詞の語順をこのように考察しているが、野田が×としている位置については少し再考が必要だと考える。(9)~(12)の×は、仁田(2002)で統語的に外側の副詞が述語に近い位置(動詞句内部)に現れている場合であるが、この場合は不自然であるかもしれないが、誤りとまではいえない。これらを とみなすことにする。これに対して、(13)~(14)の主題の前の位置は、仁田(2002)で統語的に述語と密接に関係する副詞が動詞句の外側に現れている場合で、修飾関係がわかりにくくなる。これらの副詞は、語順の自由度が低いと考える。

それでは、外国人日本語学習者は副詞の語順をどのように考えているのであろうか。本稿では、中国人日本語学習者に焦点を当て、野田(1984)の語順をもとに中国人日本語学習者の副詞の語順を調査分析する。また、小寺(2001)は、外国人日本語学習者に対する副詞の縦断的調査をおこなった結果、副詞の使用頻度および用法が広がったとしている。つまり、副詞の習得は、日本滞在期間の長さに関係があると考えられる。このことから、副詞の語順に関しても、中国国内で日本語を学習している中国人日本語学習者より日本で学習している中国人日本語学習者の方がより理解していると推測できる。そこで、調査結果については、中国国内の中国人日本語学習者と日本国内の中国人日本語学習者とを比較検討することとする。

5 調査の方法

5-1 調査期間および調査対象者

本調査は、2008年9月から10月にかけて、中国の大学に在籍し、中国語を母語とする中国人日本語学習者（CNC）と日本の大学に在籍し、中国語を母語とする中国人日本語学習者（CNJ）を対象におこなった。詳細は以下の通りである。

中国（CNC）：広西壮族自治区南寧の大学に在籍し、日本語を専攻する3年生（内訳：男性14名・女性53名、平均年齢21歳）67名。

全員が日本留学の経験を持たない。

日本（CNJ）：福岡県内・佐賀県内の大学に正規生として入学を許可された学部1年生（内訳：男性13名・女性15名、平均年齢23歳）28名。

全員が日本国内の日本語学校、留学生別科等を経て学部入学しており、日本国内での日本語学習歴は7か月から24か月となっている。

5-2 調査対象の副詞

中国人日本語学習者の作文コーパス（国立国語研究所 2001）に用いられた副詞の中から、比較的使用頻度が高く、意味・用法に多義性のある7副詞「よく」「ずっと」「もっと」「ゆっくり」「ちょっと」「もう」「まだ」を調査対象とした。

5-3 調査手順

調査対象者に対し、属性調査をおこなった後、事前調査として、調査対象の副詞の語彙的意味・用法に関する知識の有無を確認した。その後、副詞の語順調査をおこない、中国人日本語学習者の副詞の語順の理解度について、量的・質的分析をおこなう。

5-3-1 属性調査

調査にあたり、調査対象者に調査の趣旨を説明し、調査結果の公開を承諾する旨の承諾を得た後、調査対象者全員に日本語学習歴・日本語の使用頻度等に関するアンケートをおこなった。アンケートの内容は以下に示したとおりである。

属性調査アンケート

- A. 名前・年齢・性別・出身地・所属大学
- B. 中国国内での日本語学習歴
- C. 日本国内での大学入学以前の日本語学習歴（CNJ対象）
- D. 日本での滞在期間（CNJ対象）

- E. 日本への留学経験の有無（CNC対象）
- F. その他：学校以外での日本語の使用頻度等

5-3-2 事前調査

調査対象者が調査対象の副詞の語彙的意味・用法を理解しているか否かの確認を記述方式でおこなった。例1のように、調査対象の副詞を含む文（以下、「副詞文」とする）とその副詞の意味が中国語で書かれた用紙を配布し、調査対象者に副詞文中の副詞の意味に該当する中国語訳を選択させた。7副詞から成る全23の副詞文は、ランダムに並べて提示した。事前調査では副詞ごとに結果を出し、正しく語彙的意味・用法が理解されていた調査対象者のみ分析の対象とした。事前調査に用いた副詞文については、副詞の語彙的意味を付加し、以下に示した。語彙的意味は、飛田・浅田（1994）、森田（1989）、仁田（2002）を参考にした。

例1) よくタクシーの中に忘れ物をする〔 常常 很〕

よく

- a. よくタクシーの中に忘れ物をする〔頻度が高い様子〕
- b. あの人のことをよく知っている〔行為や状態の程度が十分である様子〕

ずっと

- a. 今年の夏は去年よりずっと暑い〔程度が高まる様子〕
- b. 日曜日は朝から晩までずっと家にいた〔時間的・空間的に継続している様子〕

もっと

- a. 東京も暑いが、ここはもっと暑い〔現状の程度や数量を高める様子〕
- b. もっとまじめに勉強できないのか〔話し手の不足感をあらわす〕

ゆっくり

- a. もっとゆっくり話してください〔動きのスピードの遅いこと〕
- b. 日よう日は家でゆっくりしたい〔ゆとりのある様子〕

ちょっと

- a. 昨日よりちょっとよくなった〔数量や程度などが少ない様子〕
- b. 自転車の修理は私にはちょっとむりだ〔可能性がない様子〕
- c. 中学の入試に外国語の試験はちょっと難しすぎる〔程度が高いことを強調する様子〕

- d. 帰りにちょっとお茶でも飲みませんか [気軽に行動する様子]
 もう
- a. もう太郎はここにはいません [限度を超えている様子]
 b. 足が痛くて、もう歩けない
 [現時点で程度がある限度を超えている結果、これ以上進展することがむずかしい様子]
 c. もう安心だ [基準点に達した様子]
 d. もうそろそろ来でしょう [目標に到達しようとする様子]
 e. 完成するまでもう一週間はかかる [現在の状況にさらに付け加える様子]
 まだ
- a. 新しい校舎はまだ完成していない [基準点に至っていない様子]
 b. 授業が始まるまでまだ10分ある [基準点に至るには十分に余地がある様子]
 c. 日本語はまだ平仮名しか勉強していない [現時点では不十分の様子]
 d. 太郎はまだ寝ている [基準点に至ってもなお継続している様子]
 e. 問題はまだ他にもある [さらに付け加える様子]
 f. あんな人でもないよりまだいい [最悪の状態よりは少しだけ好ましくなる様子]

5-3-3 語順調査

調査対象者に副詞文が成立すると判断する位置に副詞を挿入させることにより、調査対象者が副詞の語順をどの程度把握しているか分析する。具体的には、まず、調査対象の7副詞を用いて副詞文を作成した後、その副詞文から副詞を除いた文を用紙に記入し配布する。文には、例2のように文頭および文節間に括弧が書かれており、調査対象者に、指定した副詞が挿入できると思う位置全てに印をさせる。副詞が挿入可能な場合、括弧は空欄のままにし、挿入不可の場合には×印を付けさせた。調査に用いた文は全部で79文あり、括弧数は1文につき3から6と成っている。

例2) ()太郎は()学校を()休む

6 結果と考察

野田(1984)が示す副詞の語順をもとに、中国人日本語学習者の副詞の語順についての分析結果から考察する。また、調査結果は副詞を挿入できるとした数値をグラフで示した(値はパーセンテージである)。ここでの副詞の分類は野田(1984)の「陳述副詞、時相の副詞、時相の副詞、能動者の副詞、対象物の副詞、程度の副詞」による。

6-1 「よく」

<程度の副詞>「よく」は、修飾先である述語のすぐ前、あるいは述語との結びつきが強い成分の前におかれる(野田 1984)。

ほとんどの調査対象者が、(15)のように被修飾語の直前に「よく」をおいていた。(16)では、述語の直前に加え、約6割が「父に」の前に挿入している。これは、対象者が「父に」という結果の格成分と述語との結びつきが強いと判断していることをあらわしていると言える。(17)a,bは、(15)(16)と同じ考え方であるが、中国で日本語を学習した中国人日本語学習者(CNC)と日本で日本語を学習した中国人日本語学習者(CNJ)との結果に多少の相違がみられる。CNJの方が、述語と結びつきが強い成分とを被修飾語とする傾向がみられる。また、(17)cは、「よく」が「頭が痛い」を修飾していることになり非文となる。また、(17)dは、語の選択による間違いであろう。

(15) ¹いつも²彼女のほうがよく³食べる²⁾

(16) a. ¹田中先生は²父によく³似ている

b. ¹田中先生はよく²父に³似ている

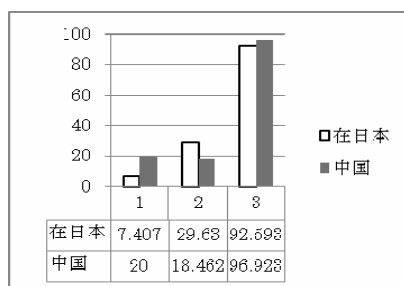
(17) a. ¹頭が²痛い時は³この薬がよく⁴効く

b. ¹頭が²痛い時はよく³この薬が⁴効く

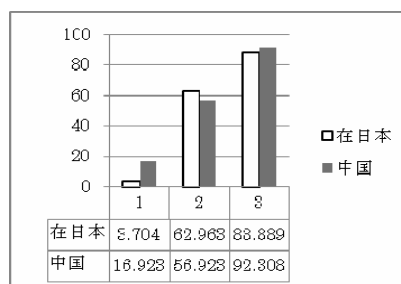
c. *よく¹頭が²痛い時は³この薬が⁴効く

d. *¹頭がよく²痛い時は³この薬が⁴効く

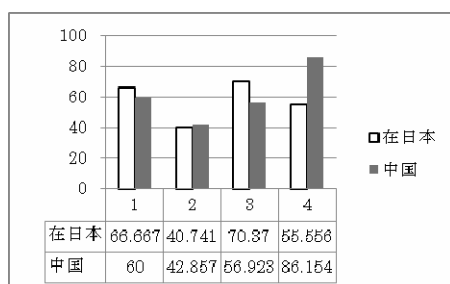
(15)



(16)



(17)



頻度を表す「よく」は、<時相の副詞>となり、位置は以下の通りである(野田 1984)。

時相の副詞の位置： ___主題___能動者の格___対象者の格___結果の格 述語

野田(1984)が示すように、「よく」は主題の後ろと対象者の格の前におかれていた(18a,b)。野田が示す時相の副詞では、主題の前あるいは対象者の格の後ろにはあまりおかれず、また、「旅行をする」の「旅行を」と「する」は、その結びつきの強さから、その間に「よく」をおくのは非常に難しいとしている。しかし、(18)c、(19)aのように主語の前に「よく」をおけるとした対象者がCNJは非常に少なかったが、CNCでは6割に達した。また、(18)d、(19)cも文として成立するが、結果の値は高くない。「よく」は語順の自由度が高いといえるが対象者は把握していないようである。(20)aにおいても「仕事が」の後ろを除き、「よく」をどの位置においても文が成立するが、(20)b,cの値は低かった。対象者は「忘れ物をする」「学校を休む」「お酒を飲みに行く」という動詞句を被修飾語とする傾向がみられた。

(18) a. 私は²タクシーの中によく³忘れ物を⁴する

b. 私はよく²タクシーの中に³忘れ物を⁴する

c. よく¹私は²タクシーの中に³忘れ物を⁴する

d. 私は²タクシーの中に³忘れ物をよく⁴する

(19) a. よく¹太郎は²学校を³休む

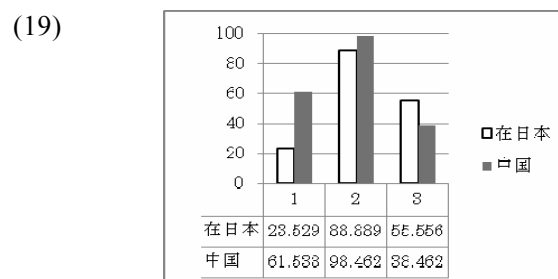
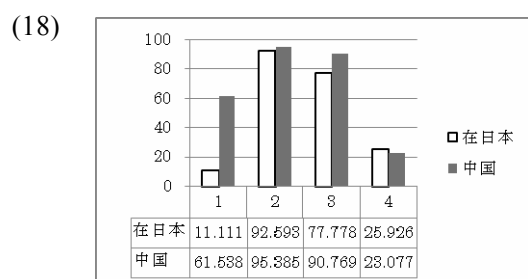
b. 太郎はよく²学校を³休む

c. 太郎は²学校をよく³休む

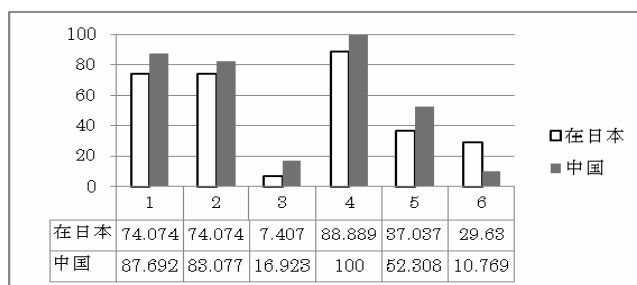
(20) a. みんなで²仕事が³終わってから⁴お酒を⁵飲み⁶に行く

b. みんなで²仕事が³終わってから⁴お酒をよく⁵飲み⁶に行く

c. みんなで²仕事が³終わってから⁴お酒を⁵飲み⁶によく⁶行く



(20)



6-2 「ずっと」と「もっと」

程度の副詞の位置：(6-1 参照)

基本的な比較構文は「XよりはY(の方)がP」となる(安達 2001)。Pは比較構文を成立させる主要因となる述語のことである。程度をあらわす「ずっと/もっと」がおかれる位置は、(21)a,b、(22) a ということになり、対象者の多くがその位置に「ずっと/もっと」を挿入していた。さらに、「ずっと」では(21)c、(23)bのように比較構文の前におけるとした対象者が少なくなかった。(21)cは、「以前より」あるいは「以前よりは交通が便利になった」を修飾している、(23)bは時間的継続を表すと考えられ、文は成立するが意味が異なる。「もっと」においても、(22)b,cのように比較構文の前、または比較構文の中におけるとした対象者が少なからずいた。全体的には、「ずっと」に比べ、「もっと」のほうがP(述語)部分の直前に挿入される比率が高かった。しかし、(23)cのように比較構文の前におき、不自然な文となってしまう場合がある。また、(23)b',c'の位置の「もっと」は単純な比較構文の意味ではなくなってしまう。

(21) a. ¹以前よりは²交通が³ずっと便利になった

b. ¹以前よりは²ずっと交通が³便利になった

c. ¹ずっと以前よりは²交通が³便利になった

(22) a. ¹昼より²夜のほうが³もっとにぎやかだ

b. ¹もっと昼より²夜のほうが³にぎやかだ

c. ¹昼よりも²もっと夜のほうが³にぎやかだ

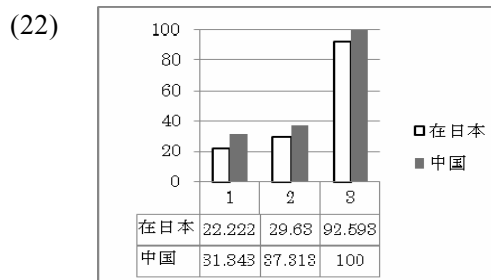
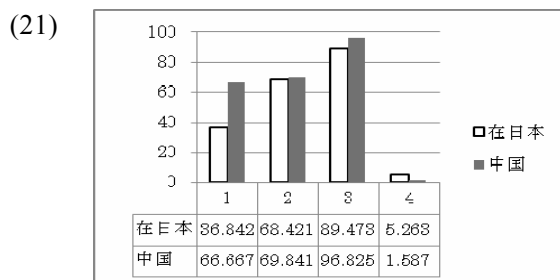
(23) a. 弟は²兄よりも³ずっと/もっと太っている

b. ¹?ずっと弟は²兄よりも³太っている

b'. ¹もっと弟は²兄よりも³太っている

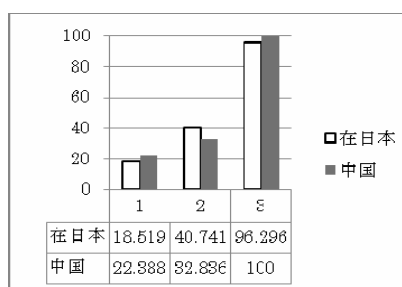
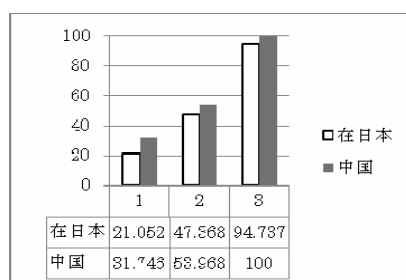
c. ¹?弟は²ずっと兄よりも³太っている

c'. ¹弟はもっと ²兄よりも ³太っている



(23) 「ずっと」

「もっと」



時相の副詞の位置：(6-1 参照)

時間などを継続している様子をあらわす「ずっと」は、比較的自由に語順を入れ替えられていたが、「よく」で述べたように、主題の前におけるとした対象者は少なかった(24 a、25a)。 (25)でも同様の結果がみられた。

(24) a. ずっと ¹太郎は ²病気で ³休んでいる

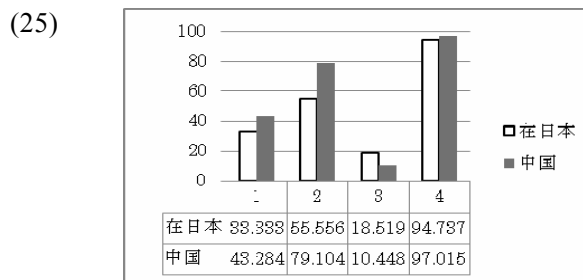
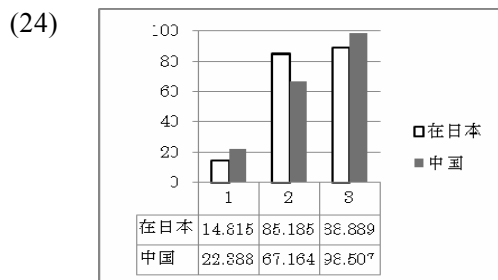
b. ¹太郎は ずっと ²病気で ³休んでいる

c. ¹太郎は ²病気で ずっと ³休んでいる

(25) a. ずっと ¹子どもは ²しごとが ³終わるのを ⁴待っていた

b. ¹子どもは ずっと ²しごとが ³終わるのを ⁴待っていた

c. ¹子どもは ²しごとが ³終わるのを ずっと ⁴待っていた



「もっと」には、<程度の副詞>から逸脱した用法がある。話し手の主観を表しており、否定をあらわす語と呼応し、現状の否定をあらわす。語順は、現状を否定するような語の直前におかれる傾向がある(27)。 (26) a,b のように、否定する内容によって「もっと」の位置が変わる。また、(28) a では、陳述の副詞「どうして」の前におくことも可能である。しかし、(28) a,b の位置に「もっと」をおけるとした調査対象者は、非常に少なかった。この結果からは、調査対象者が語順を理解していたかどうか判断が難しい。

(26) a. もっと¹ 去年のほうが² ました だった

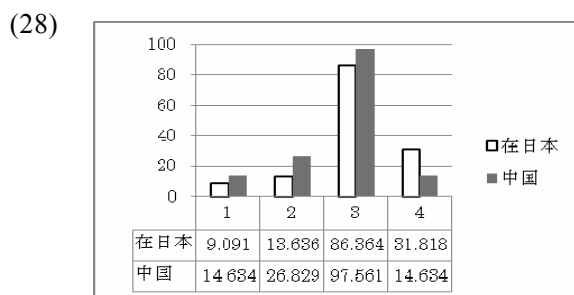
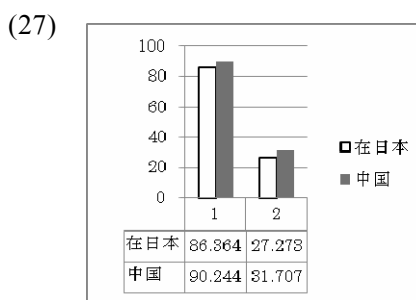
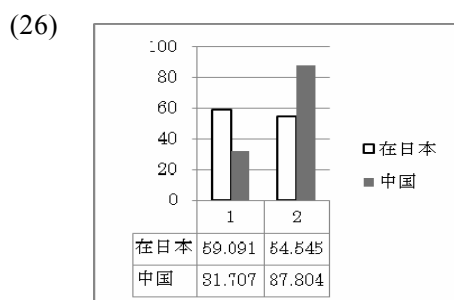
b. ¹ 去年のほうが もっと ました だった

(27) もっと¹ 違うのは² ないの

(28) a. もっと¹ どうして² いつも³ 早く⁴ 言わないの

b. ¹ どうしても もっと² いつも³ 早く⁴ 言わないの

c. ¹ どうして² いつも もっと³ 早く⁴ 言わないの



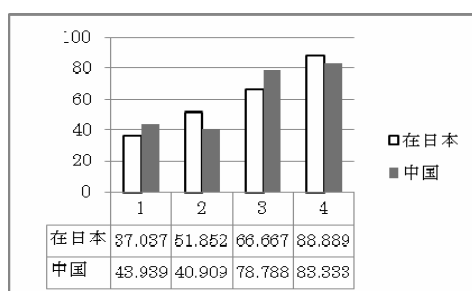
6-3 「ゆっくり」

対象物の副詞の位置： × 主題 × 能動者の格 __ 対象者の格 __ 結果の格 述語

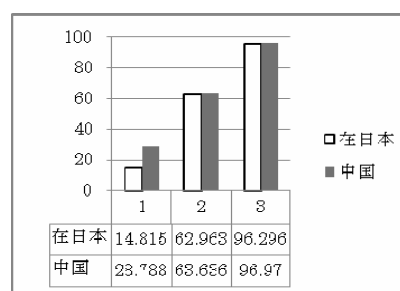
「ゆっくり」は、動きの様態をあらわすが、児玉（2008）はそれを命題の事象の変化をあらわす「動き様態」と心的状態を含めた人間の行為とに分けている。前者の「ゆっくり」の場合、野田（1984）は対象者の格または能動者の格の後ろにおけるとしており、調査結果においても、(29)a,b を可能とした値は高かった。また、約 4 割の調査対象者が文頭に挿入できるとした。(29)c,c'のように「ゆっくり」を文頭においても文は成立するが、被修飾部の解釈が曖昧になる。(29)d は、下位の名詞句内の動詞を修飾する位置であるため、(29)a、b とは意味の異なる文となってしまう。(30)では、文頭にはほとんど挿入されていなかった（30a）。

- (29) a. ¹荷物を²載せた船が³港をゆっくり⁴離れた
 b. ¹荷物を²載せた船がゆっくり³港を⁴離れた
 c. ゆっくり¹荷物を²載せた船が³港を⁴離れた
 c'. ゆっくり¹荷物を²載せた船が³港を⁴離れた
 d. ¹荷物をゆっくり²載せた船が³港を⁴離れた
- (30) a. ¹溶岩が²噴火口からゆっくり³流れだした
 b. ¹溶岩がゆっくり²噴火口から³流れだした
 c. ゆっくり¹溶岩が²噴火口から³流れだした

(29)



(30)

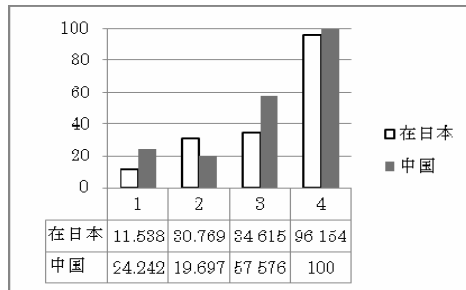


ゆとりのある様子等、心的状態を含めた人間の行為をあらわす「ゆっくり」では、多くの調査対象者が述語の直前におけるとした（32a、33a）。しかし、「ゆっくり」は(32)a-c、(33)a-cのように非常に語順の自由度があるが、調査対象者があまりこの自由度を理解していないようである。(33)d は、「ゆっくりする」という慣用的表現を用いたのだと思われる

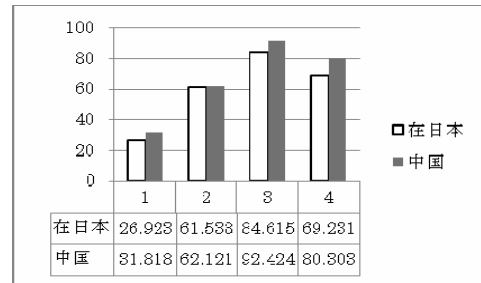
が、「ゆっくりする」は「旅行を」目的語にできないので、非文となる。

- (32) a. ¹オリンピックが²終わったら³1か月ぐらいゆっくり⁴休みたい
 b. ¹オリンピックが²終わったらゆっくり³1か月ぐらい休みたい
 c. ゆっくり¹オリンピックが²終わったら³1か月ぐらい⁴休みたい
- (33) a. ¹夏休みの間²家族でゆっくり³旅行を⁴した
 b. ¹夏休みの間ゆっくり²家族で³旅行を⁴した
 c. ゆっくり¹夏休みの間²家族で³旅行を⁴した
 d.* ¹夏休みの間²家族で³旅行をゆっくり⁴した

(32)



(33)



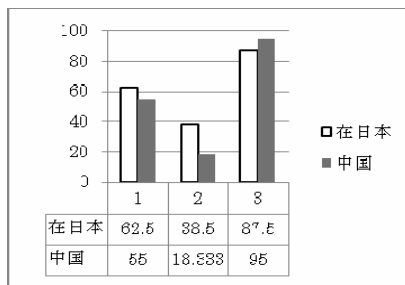
6-4 「ちょっと」

程度の副詞の位置:(6-1 参照)

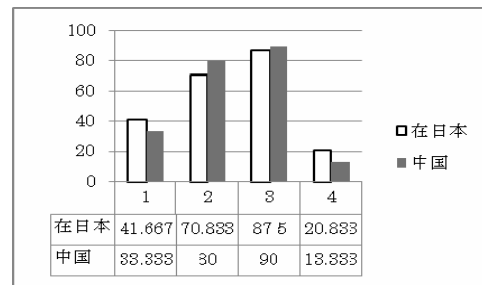
<程度の副詞>「ちょっと」は、多くの調査対象者が述語または述語との結びつきが強い語の直前においていた(34a、35a,b)。また、約6割の調査対象者が(34)bも正しい文とした。しかし、(34)bの場合、「ちょっと」が動詞を修飾しているかどうかで意味解釈が異なってしまう。(35)cを正しいとしたものも3割~4割と多い。

- (34) a. ¹家から²駅まではちょっと³離れている
 b. ちょっと¹家から²駅までは³離れている
- (35) a. ¹先生の家は²この道をちょっと³行った所に⁴ある
 b. ¹先生の家はちょっと²この道を³行った所に⁴ある
 c. *ちょっと¹先生の家は²この道を³行った所に⁴ある

(34)



(35)



「ちょっと」には、<程度の副詞>として以外に様々な用法があるが、岡本・斎藤(2004)は、それをコミュニケーション機能を支えているものとまとめて表現している。この場合の「ちょっと」は必ずしも後続の語を修飾するわけではなく、(36) a-c が成立する。その中で、調査対象者の約9割が(36) c のように、文頭におくとし、(36)a は約3割、(36)b は半分程度であった。また、「ちょっと」は(37)a-d のように、下位の句中以外は語順を自由に入れ替えることができると考えられるが、調査結果では、調査対象者はコミュニケーション機能を支える「ちょっと」の語順の自由度をあまり理解していない。

(36) a. ¹悪いんだけど²今日はちょっと³帰ってくれない?

b. ¹悪いんだけどちょっと²今日は³帰ってくれない?

c. ちょっと¹悪いんだけど²今日は³帰ってくれない?

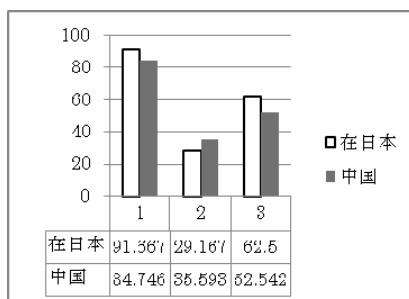
(37) a. ¹仕事が²終わったら³帰りに⁴お茶でもちょっと⁵飲みませんか?

b. ¹仕事が²終わったら³帰りにちょっと⁴お茶でも⁵飲みませんか?

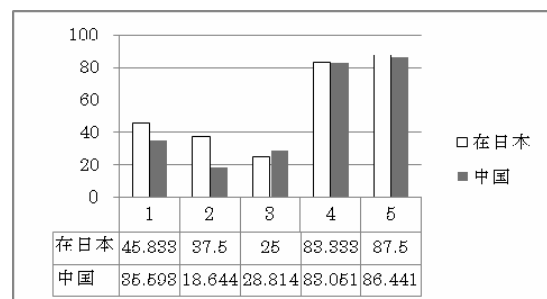
c. ¹仕事が²終わったらちょっと³帰りに⁴お茶でも⁵飲みませんか?

d. ちょっと¹仕事が²終わったら³帰りに⁴お茶でも⁵飲みませんか?

(36)



(37)



6-5 「もう」

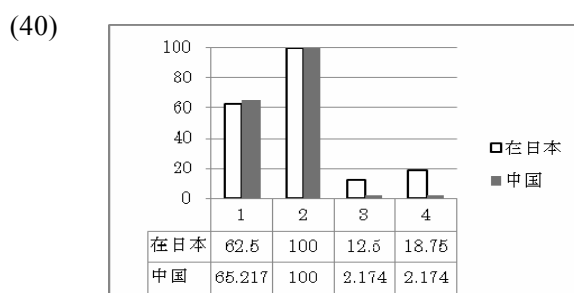
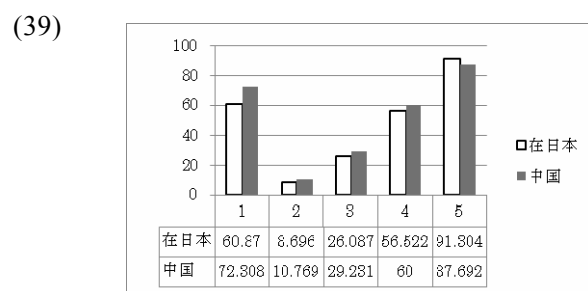
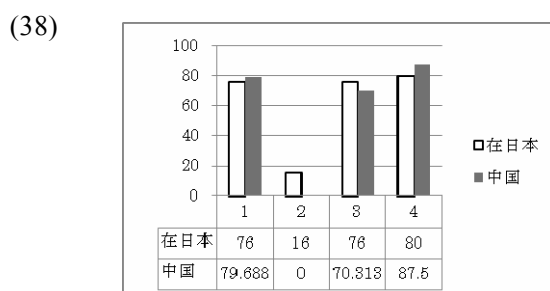
時相の副詞の位置： ___主題___能動者の格___対象者の格___結果の格 述語

すでにその状態になったという変化の結果が継続していることをあらわす「もう」は、(38)aのように「冷めている」という状態性の述語の前にのみおくことができ、調査では約8割の調査対象者がここに「もう」をおけるとした。しかし、同時に下位の句内の(38)b,cも文として成立すると回答した。(39)a,bは、事態が基準点に達する直前であることをあらわしており、(39)cは間投詞としての「もう」となり、<時相の副詞>としては非文となる。

さらに、数量詞の直前に「もう」をおいた場合、現在の状況に数量詞で表現した時間・数量を付加することを意味する(40a)。調査対象者全員がこれを理解していたが、(40)bのように、文頭に「もう」をおけるとした調査対象者が6割を超えた。

「もう」は、できるだけ語順の自由度がない例文を提示したが、以上の結果から考えると、調査対象者が「もう」の語順を理解しているとは言い難い。

- (38) a. ¹熱い² コーヒーを³ 頼んだのにもう⁴冷めている
 b. *¹熱い² コーヒーをもう³ 頼んだのに⁴冷めている
 c. *もう¹熱い² コーヒーを³ 頼んだのに⁴冷めている
- (39) a. ¹早く² 席に³ つかないと⁴ 映画はもう⁵ 始まるよ
 b. ¹早く² 席に³ つかないともう⁴ 映画は⁵ 始まるよ
 c. *もう¹早く² 席に³ つかないと⁴ 映画は⁵ 始まるよ
- (40) a. ¹大学でもう²1年³ 経済を⁴ 勉強したい
 b. もう¹大学で²1年³ 経済を⁴ 勉強したい



6-6 「まだ」

時相の副詞の位置： ___主題___ 能動者の格___ 対象者の格___ 結果の格 述語

事態がその時点まで達していないことをあらわす「まだ」は、多くの調査対象者が(41) a,bのように、状態性の述語の前におけるとしたが、半数程度が(41)cも可能だと回答した。(41)cは「まだ」と状態性の述語との間が下位の句（ノ二節）によって分断されているため関係の解釈が難しくなる。(42)a-cは、その時点においてその状態が継続していることをあらわしているが、(42)cのように、主語の前におけるとした調査対象者はわずかであった。

(43)の「まだ」は、さらに付加する場合に用いられ、付加する語の前におかれる。そこで、調査対象者は、「他に」「意見がある」「ある」の前に「まだ」がおけるとしたが、(43)は、「意見が」と「ある」の結びつきが強く、その間に「まだ」が入れ難いが、他の正答と同程度の回答であった。また、(44)は、その時点の状態を最低時の状態と比較し、よい状態であるということを示唆しており、文中では、比較した結果の状態をあらわす語の直前におかれやすい。

(41) a. ¹30分前に²薬を³飲んだのに⁴熱がまだ⁵下がらない

b. ¹30分前に²薬を³飲んだのにまだ⁴熱が⁵下がらない

c. *まだ¹30分前に²薬を³飲んだのに⁴熱が⁵下がらない

(42) a. ¹太郎は²10年前に³別れた女性のことをまだ⁴覚えている

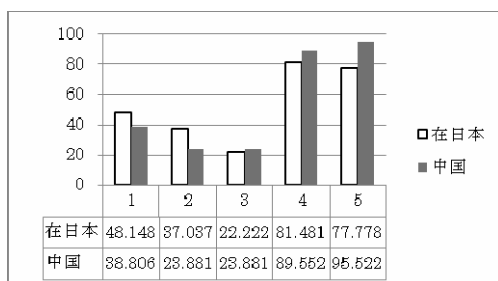
b. ¹太郎はまだ²10年前に³別れた女性のことを⁴覚えている

c. まだ¹太郎は²10年前に³別れた女性のことを⁴覚えている

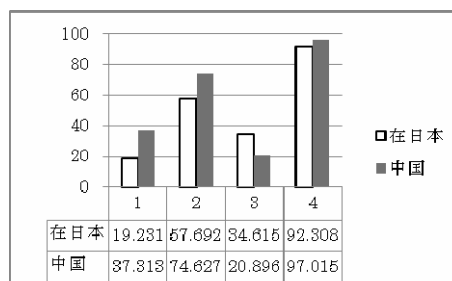
(43) *¹他に²意見がまだ³ある人は⁴手を⁵あげてください

(44) ¹卵の値段が²3倍なんてまだ³安いほうだよ

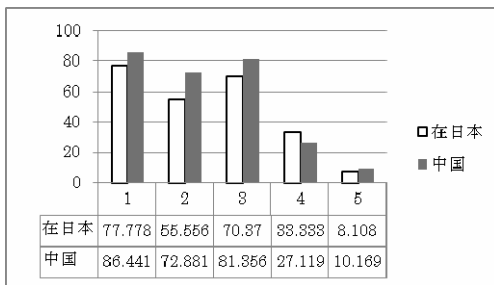
(41)



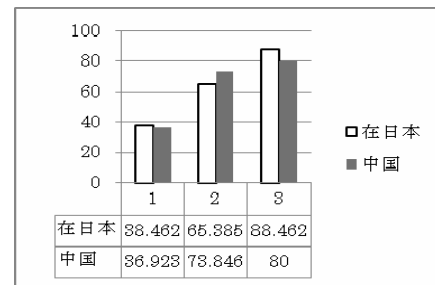
(42)



(43)



(44)



7 おわりに

本稿では、中国人日本語学習者がどの程度副詞の語順の自由度を把握しているか、野田（1984）の語順をもとに分析した。中国人日本語学習者の結果を表にまとめた。

* 全体的には副詞の多くが、野田（1984）の示す語順より実際には自由度が高いと考えられる。

調査対象者の語順の理解は、全体として高くない。下位の句の内部であっても被修飾語として現れやすそうな語の前に副詞をおいてしまう誤用も一定数みられた。対象者ごとに一貫した傾向である可能性もあるが、分析していない。程度の副詞の語順の制約は比較的よく理解されているが、誤用もあった。

一方、語順が比較的自由的な副詞についても、副詞をおく位置が偏る傾向がある。主題の前に副詞をおくことができることへの理解は低い。ただし、主題がない文では文頭に副詞をおく誤用も多く、中国語母語話者が主題との関係で副詞の位置を判断している可能性もある。ただし、中国で日本語を学習した中国人日本語学習者（CNC）が日本で日本語を学習した中国人日本語学習者（CNJ）と比べて主題の前に副詞をおく答えが多い。

その他の点では CNC と CNJ には大きな差はみられなかった。

程度の副詞	<p>「よく」「ちょっと」「ずっと」「もっと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 述語の直前・述語との結びつきが強い成分の前におかれていた。 * 「ずっと」「もっと」は、比較構文の外にもおけると考えられる。 * 「もっと」より「ずっと」のほうが、比較構文の外においていた値が高かった。
対象物の副詞	ゆっくり（動きの様態）

	<p>* 対象者の格または能動者の格の後ろ、そして、能動者の格の前におかれていた。</p>
能動者の副詞	<p>ゆっくり（心的状態を含めた人間の行為）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 述語の直前においていた。 <p>* 実際は、語順の自由度があるが、理解されていなかった。</p> <p>* 慣用句としての答えが多かった。</p>
時相の副詞	<p>よく（頻度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主語の後ろと対象者の格の前にもっともおかれていた。 ・ 「学校を休む」等、動詞だけではなく動詞句を述語とする傾向がよい。 <p>* 主題の前にもおけるという自由度の理解はやや低い。</p> <p>ずっと（時間の継続）</p> <p>* 主題の前にもおけるという自由度の理解はかなり低い。</p> <p>もう（ある時点での変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 下位の句の動詞の前に置く誤用がある。意味の誤解かもしれない。 <p>まだ（ある時点での変化の欠如）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 下位の句の動詞の前に置く誤用がある。意味の誤解かもしれない。
その他	<p>もう（数量の付加）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 語順の自由度がないが、理解されていなかった。文頭におく誤用が多い。 <p>まだ（付加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語順の自由度は理解されている。 <p>もっと（現状の否定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状を否定するような語の直前におかれていた。

注

- 1) 国立国語研究所（2001）のデータベースで用いられている執筆者番号を表す。
- 2) 上付き数字は、（ ）で示した副詞が挿入できるか否かの位置である。グラフの横軸はこの上付き数字を指している。

参考文献

- 安達太郎 (2001) 「比較構文の全体像」『広島女子大学国際文化学部紀要』第9号 県立広島女子大学 pp.1-19
- 小矢野哲夫 (1984) 「副用語の指導上の問題点」『日本語教育』日本語教育学会 pp.7-18
- 児玉 望 (2008) 「副詞の構造的多義」『ありあけ熊本大学言語学論文集 7』熊本大学言語学研究室 p.41-60
- 野田尚史 (1984) 「副詞の語順」『日本語教育』日本語教育学会 p.79-90
- 野田尚史 (2006) 「語の順序・成分の順序・文の順序 - 順序の自由度と自由度の動機 - 」『日本語文法の新地平 1 形態・叙述内容編』くろしお出版 p.179-199
- 国立国語研究所 (2001) 『日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース ver.2.』
- 仁田義雄 (2002) 『新日本語文法選書 3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 柴谷方良・景山太郎・田守育弘 (1982) 『言語の構造 - 理論と分析 - 意味・統語篇』くろしお出版
- 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』東京堂出版
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店